

平成25年度

事業報告書

自 平成25年4月 1日

至 平成26年3月31日

公益財団法人 根津美術館

東京都港区南青山6丁目5番1号

## 目次

I 公益事業.....	3
【事業の趣旨】 .....	3
【施設の概要】 .....	3
【事業の概要】 .....	3
1. 展示活動.....	3
(1) 特別展・コレクション展.....	3
(2) 日本庭園.....	5
(3) ミュージアムショップ .....	5
(4) 喫茶店.....	6
2. 美術品の収集、保管及び修復.....	6
(1) 美術品の購入.....	6
(2) 美術品の保管・修復.....	6
(3) 美術品の寄贈受入.....	7
3. 調査研究.....	7
(1) 調査・研究.....	7
(2) データベース .....	7
(3) 研究資料の整備 .....	8
(4) 学術プロジェクトへの参加 .....	8
(5) 美術品の閲覧.....	8
4. 教育普及.....	12
(1) 催事.....	12
(2) インターネットによる広報.....	14
(3) プレスリリース .....	14
(4) ポスター・チラシ・年間スケジュールパンフレット .....	14
(5) 内覧会・レセプション .....	15
(6) 施設案内パンフレット .....	15
(8) 地域との連携.....	16
(9) 有料広告 .....	16
(10) 根津倶楽部.....	16
(11) NEZUNET .....	16
(12) 青山茶会.....	17
(13) 美術品の館外貸出.....	17
(14) 画像の貸出.....	19
(15) 施設の貸与.....	19

II	収益事業.....	20
	【事業の概要】 .....	20
	1. 不動産事業.....	20
III	庶務の概要.....	21
	1. 役員.....	21
	2. 職員.....	23
	3. 役員会 .....	24
	(1) 理事会.....	24
	(2) 評議員会 .....	26

## I 公益事業

### 【事業の趣旨】

昭和 15 年(1940) 11 月、初代根津嘉一郎(1860~1940)の遺志により財団法人を設立、翌年 10 月に開館した根津美術館は、美術品の展示及び教育・普及活動を行うことにより、多くの人々が日本・東洋古美術を鑑賞し、芸術・文化に関する理解を深めることを目的とした諸事業を展開している。

今年度もその理念に基づき、特別展 3 回(次年度にまたがって開催した「清麿」展の 29 日間を含む)と所蔵美術品によるコレクション展 5 回を開催し、展覧会に関連した講演会、会員向けプログラム、施設を利用した催事などを実施した。

所蔵美術品の調査研究を行い、その成果を館内外での発表や紀要や図録等の刊行物により公表し、館外の学術研究及び教育普及活動への協力などを行った。また、継続的な収集活動によってコレクションの充実を図り、修復などによる美術品の維持・管理に努めた。

### 【施設の概要】

平成 21 年 10 月に新創開館した本館は地上 2 階(展示室 1~6 など)、地下 1 階(講堂など)。平成 2 年に建設した展示施設を同 19 年に収蔵庫と事務室に改装した事務棟は地上 2 階、地下 1 階からなる。平成 21 年度地域新エネルギー等導入促進対策費補助金補助事業で導入した、本館 2 階屋根上の 252 枚のソーラーシステムパネルを引き続き運用し、資源エネルギーの活用にも努めている。

日本庭園には、薬師堂および茶室 4 棟があり、各所に石造物約 150 件が据えられている。庭園の豊かな樹木は港区の保護樹林に指定されている。

### 【事業の概要】

#### 1. 展示活動

##### (1) 特別展・コレクション展

美術館の開館時間は、午前 10 時から午後 5 時までとし、月曜日と展示替期間及び年末年始を除く毎日開館した。なお「国宝燕子花図屏風ー〈琳派〉の共演ー」会期中の 4 月 27 日(土)より 5 月 6 日(日)までの開催日 10 日間は、午後 7 時まで開館時間を延長した。

入館料は、原則として特別展の場合一般 1,200 円、学生 1,000 円、コレクション展では一般 1,000 円、学生 800 円とし、いずれも中学生以下は無料とした。20 名以上の団体、障害者手帳提示者と同伴 1 名及び運転経歴証明書提示者へは 1 名につき 200 円の割引を行い、また 100 円割引料金の次回展の前売券を美術館内で販売した。

平成 25 年度は、開館日数計 240 日間に、来館者 166,465 名(うち有料来館 148,600 名)を迎えた。

1 階展示室 1(場合により展示室 2、5 を含む)では、下記の 8 回の特別展及びコレクション展を開催した。特別展は当館の所蔵美術品のみならず館外から借用する美術品も含めて構成し、コレクション展は所蔵美術品を中心に、適宜特別出品、参考出品などの作品により構成した。いずれの展覧会も、当館学芸部が企画し、担当学芸員が中心となって、作品の選定、運搬、会場構成、展示、特別展図録、関連する所蔵品図録などの作成を行った。また、鑑賞しやすさを考慮した展示に努め、国内外からの来館者が理解しやすい日本語・英語表記の展示解説を付し、日本語の音声ガイドを備えた。

- ① 展示室1 コレクション展「遠州・不味の美意識 一名物の茶道具」  
平成25年2月23日(土)～4月7日(日) 当年度内の展示日数6日間  
入館者 5,130名(有料 4,347名) (全開催日38日間・入館者23,182名)
- ② 展示室1・2 コレクション展「国宝燕子花図屏風 ー(琳派)の競演ー」  
平成25年4月20日(土)～5月19日(日) 展示日数27日間  
入館者 39,281名(有料 35,317名)
- ③ 展示室1・2・5  
特別展「山口県立萩美術館・浦上記念館名品展 やきものが好き、浮世絵も好き」  
平成25年6月1日(土)～7月15日(月) 展示日数39日間  
入館者 21,324名(有料 18,837名)
- ④ 展示室1・2 コレクション展「曼荼羅展 ー宇宙は神仏で充満する!」  
平成25年7月27日(土)～9月1日(日) 展示日数32日間  
入館者 17,527名(有料 15,414名)
- ⑤ 展示室1・2 コレクション展「清雅なる情景 日本中世の水墨画」  
平成25年9月11日(水)～10月20日(日) 展示日数35日間  
入館者 17,531名(有料 15,656名)
- ⑥ 展示室1・2 特別展「井戸茶碗 ー戦国武将が憧れたうつわー」  
平成25年11月2日(土)～12月15日(日) 展示日数38日間  
入館者 39,937名(有料 36,524名)
- ⑦ 展示室1 コレクション展「和歌を愛でる」  
平成26年1月9日(木)～2月16日(日) 展示日数34日間  
入館者 13,515名(有料 11,299名)
- ⑧ 展示室1 特別展「生誕200年記念特別展 清麿 ー幕末の志士を魅了した名工ー」  
平成26年2月26日(水)～4月6日(日) 当年度内の展示日数29日間  
入館者 12,220名(有料 11,206名) (全開催日35日間・入館者16,334名)

また、上記の展覧会の同時開催として、展示室2、5では、特別展・コレクション展の内容とのバランスをはかり、それと異なるあるいは連動するジャンルやテーマに基づくテーマ展示、また展示室6では季節に合わせた茶道具の展示を下記のとおり行った。なお一覧中の“ー”は上記特別展・コレクション展の一部であることを意味する。

会期	展示室2	展示室5	展示室6
①	「大雅と良寛の書」	「お雛さま ー旧竹田宮家寄贈品ー」	「花見月の茶」
②	ー	「仁清と乾山」	「清和月の茶」
③	ー	ー	「風待月の茶」
④	ー	「茶席の主・釜」	「盛夏の朝茶事」
⑤	ー	「刀装具の花鳥風月」	「夜長月の茶」
⑥	ー	「中国の鏡 ー村上コレクションの名品ー」	「仲冬の茶の湯」
⑦	「小袖の彩り」	「百椿図」	「初釜 ー来福を願うー」
⑧	「神護寺経 ーきらめく経文ー」	「雛まつり ー旧竹田宮家の雛人形と雛道具ー」	「花時の茶事」

展示室4「古代中国の青銅器」は前年度より、展示作品の一部にテーマ性のある展示を行っており、今年度は、前年度から引き続き展示していた「十二支の鏡」を、②～③の会期に「吉祥の鏡」に替え、さらに④～⑧の会期には「花文様の鏡」を展示した。展示室3では、「仏教彫刻の魅力」のテーマのもと、前年度9月に始まる展示を引き続き行った。

なお、展覧会開催中、以下の国賓を含む多数の海外要人をお迎えした。

平成25年6月7日 フランス オランダ大統領（国賓）、外務大臣、文化大臣他。

フランス大使館主催による、日本の文化人との交流会を開催した。

平成25年11月2日 ルクセンブルク フェリックス王子ご夫妻

その他、エスカール駐日ペルー大使、ケネディ駐日アメリカ大使、カハノフ駐日イスラエル大使など、駐日海外公館関係者など。

## (2) 日本庭園

17,000平米におよぶ日本庭園は、中央に湧水の池を配する変化に富んだ地形に喬木や灌木が茂り、池の周囲に建つ4棟の茶室や点在する約150件の石造物が風情を添える。四季に応じた自然の変化を楽しむことのできる庭園の存在は、当館の特色のひとつでもある。当年度もまた、これまでに引き続き、来館者の安全を最優先した環境の整備に心がけ、生態系の維持管理に努めた。

平成25年10月より、毎月木曜日に1棟ずつ、一般来館者向けの茶室見学会を開催している。

### [平成25年]

10月10日(木)	弘仁亭・無事庵	20名
11月28日(木)	一樹庵・披錦斎	150名
12月12日(木)	閑中庵・牛部屋	175名

### [平成26年]

1月16日(木)	斑鳩庵・清溪亭	43名
2月13日(木)	弘仁亭・無事庵	46名
3月6日(木)	閑中庵・牛部屋	50名

計6回 484名

2月の大雪では、アカマツ、カシ、カエデ、サルスベリ、サクラ、ナラ等約100本の幹や枝が折れたため、約3週間を費やして、これらの樹木の修復、伐採、搬出、清掃などを行った。

また、ドイツと日本の有志からの寄付金により制作された「ドイツと日本 友好のベンチ」(石・木製)を庭園内に設置し、2月25日に関係者による除幕式を行った。

## (3) ミュージアムショップ

ホールに隣接するミュージアムショップでは、当館の施設や所蔵美術品、開催の展覧会に関連した商品を取り揃え、来館者の多様なニーズに合った、また知的欲求に合う商品の販売活動を行った。

学術研究の成果に基づく図録や研究紀要などの書籍に加え、展覧会の内容を考慮した専門書・一般書籍を販売するとともに、出展作品の絵葉書やグリーティングカード類、また所蔵美術品をもとにデザイン性や適正な価格を考慮したオリジナル商品を企画・制作・販売した。さらに、適宜、季節や展覧会のテーマに合った委託商品を加えることでバリエーション豊かな商品構成とし、また効果的なディスプレイを工夫することにより、当館ならではのショップづくりを促進した。

当年度、新たに製作したオリジナル商品は14品目24種、委託商品は12社156種である。

引き続き山梨市の根津記念館「ミュージアムショップ平等」に商品および出版物の販売を、また東京国立博物館などのミュージアムショップに出版物の販売を委託し、さらに所蔵美術品の貸出先のミュージアムショップには、展覧会の会期中絵葉書などのオリジナル商品の販売を委託した。

#### (4) 喫茶店

庭園内に設置された NEZUCAFÉ は、来館者の憩いや談話の場である。定番の商品に、季節に応じた新商品を適宜加えることでメニューに変化をつけ、魅力あるメニュー作りを行った。本年度はさらに、展覧会のテーマにちなんだ期間限定商品の開発を行い、話題性のある商品の販売を促進した。食品や店内環境の衛生に万全を期すとともに、来館者の憩いや団らんの場として落ち着いた雰囲気の中で庭園の自然を眺める空間を維持し、リピーターやファン層の獲得に努めた。

## 2. 美術品の収集、保管及び修復

### (1) 美術品の購入

本年度に、美術品の購入はなかった。

### (2) 美術品の保管・修復

所蔵美術品の保管を万全にするために、以下の作業を行った。

#### (展示施設)

- ① 展示施設内の虫害に対するモニタリング調査を、年間2回（5月14日～6月11日、9月18日～10月17日）実施して、施設環境の監視を行なった。
- ② 展示ケース内の除塵防黴作業を、年間2回（7月17日～7月19日、12月18日～12月24日）行った。

#### (収蔵施設)

- ① 収蔵庫のカビや虫害に対するモニタリング調査を、年間2回（5月14日～6月11日、9月18日～10月17日）実施し、収蔵環境の監視を継続した。
- ② モニタリング調査の結果をもとに、大規模清掃を2月5日～7日に実施した。
- ③ 虫害がみられた仮収蔵庫について、12月18日～12月24日に除塵防黴施工と簡易燻蒸を行ない、庫内の備品について被覆燻蒸を行った。

以下の所蔵美術品の修理を実施した。

- ① 補助修理（平成25年度国宝重要文化財等保存整備費補助金、同年度東京都文化財保存事業費補助金ならびに自費負担金による「国宝 根本百一羯磨巻第六美術工芸品保存修理事業」として）

国宝 根本百一羯磨巻第六（平成26年度へ継続）	1巻	岡墨光堂
-------------------------	----	------

- ② 自費修理および手入

扇面絵画卷（平成24年度からの継続事業）	1巻	半田九清堂
伊勢近江風俗図屏風（平成26年度への継続事業）	6曲1双	半田九清堂
当麻曼茶羅	1幅	半田九清堂
兜率天曼茶羅	1幅	半田九清堂
刺繍地藏菩薩像	1幅	半田九清堂

根本説一切有部毘奈耶雜事 卷第二十四	1 卷	半田九清堂
陰持入經	1 卷	半田九清堂
仏説九横經	1 卷	半田九清堂
長者子懊惱三処經	1 卷	半田九清堂
無量寿經	1 卷	半田九清堂
重要文化財 芦屋松梅図真形釜	1 口	長野烈氏
春日厨子 (平成 24 年度からの継続事業)	1 基	小西美術工芸社
刀剣手入作業	168 振	本阿弥光洲氏

### (3) 美術品の寄贈受入

本年度、作品の寄贈はなかった。

## 3. 調査研究

### (1) 調査・研究

引き続き、所蔵美術品および展覧会に関わる調査・研究を行い、新たな知見を館内での講演会や館外での学会などで発表するとともに、研究成果にもとづく研究紀要、展覧会図録および所蔵品図録を出版した。

#### ① 紀要

『根津美術館紀要 此君 第5号 特集 光琳画の展開と受容』

平成 26 年 3 月 28 日発行 800 部

#### ② 展覧会図録

『山口県立萩美術館・浦上記念館名品展 やきものが好き、浮世絵も好き』

平成 25 年 6 月 1 日発行 2,000 部

『井戸茶碗 戦国武将が憧れたうつわ』

初刷 平成 25 年 11 月 1 日発行 4,000 部

二刷 3,000 部

三刷 1,500 部

#### ③ コレクション図録

『琳派コレクション』

平成 25 年 4 月 20 日発行 3,000 部

『根津美術館所蔵 密教絵画 鑑賞の手引き』

初刷 平成 25 年 7 月 27 日発行 2,000 部

二刷 1,500 部

『根津美術館 百華撰』

二刷 平成 25 年 7 月 31 日発行 2,000 部

『百椿図』

三刷 平成 26 年 1 月 9 日発行 2,000 部

### (2) データベース

平成 21 年度に基本システムが完成した当館の収蔵品データベースについて、データの入力・更新、デジタル画像の登録、ならびにシステムの改善を行った。

- ① 和文の基本データ入力に続いて、英語の基本データ入力を進めた。書蹟、絵画については英文のデータ入力をほぼ完了し、工芸作品の入力に着手した。
- ② 引き続き、展示履歴および作品解説の入力作業を行った。
- ③ また、ポジフィルムの高精細デジタル化と登録を引き続き行った。当年度 579 枚を終了したことで、収蔵品の約 90%の主要画像のフィルムがデジタル化された。



### (3) 研究資料の整備

美術品の調査・研究に必要な研究図書や研究資料の購入・収集・整理を行った。

- ① 昨年度に引き続き、図書の受入や収蔵図書データベースの整備や修正を行うことで、図書管理体制の充実化を図った。既に受け入れている図書については、アルバイト2名を雇用し、図書のうち、国内外刊行の研究雑誌のデータベースへの登録を終了し、国内刊行の発掘調査報告書に着手して曝書・登録を進めた（来年度に完了の予定）。
- ② 本年度に刊行した図録および紀要を、国内237、海外108機関に贈呈し、また美術館・博物館など279の研究機関より学術刊行物を受贈した。
- ③ 展覧会の開催や当館所蔵品の研究のため、237冊の研究図書を購入した。

### (4) 学術プロジェクトへの参加

- ・館外の研究・教育機関が行う各種学術プロジェクトに参加し、国内外の研究者や研究機関とその成果を共有した。平成26年1月、文部科学省が定める科学研究費補助金取扱規定第2条に規定する研究機関に指定され、いわゆる科学研究費を申請することのできる機関となった。
- ・文部科学省および各教育委員会の要請により、当館学芸員が、美術品の指定、保存、国家補償および国際会議の企画などに関わる会議に参画した。
- ・独立行政法人および公私立の博物館・美術館の要請により、当館学芸員が、美術品の購入・修理、館の運営などに関わる会議に委員として参画した。

### (5) 美術品の閲覧

所蔵美術品の閲覧申請を受け、研究の目的や学術的成果が期待でき、且つ作品が安全な状態であることを確認のうえ、以下41件の研究に協力した。

閲覧日	閲覧者	所属	閲覧作品
[平成24年]			
4月7日	荒川正明	学習院大学	色絵紫陽花図角皿 色絵桔梗図角皿 重要文化財 色絵絵替土器皿 錆絵山水文茶碗 染付錆絵菊花文水指 錆絵独釣図角皿 錆絵山水図角皿 錆絵梅図角皿 錆絵水仙図角皿 錆絵蘭石図角皿 呉州赤絵写蓋茶碗
4月18日	瀬津 勲 瀬津櫻子	瀬津雅陶堂 同上	青井戸茶碗 銘 柴田
4月26日	神谷 浩	名古屋市博物館	高尾太夫吉原通船図 歌川広重筆
5月16日	福田誠一郎	松江市枕流会	青磁花生 銘 夕端山 覆紙 志野茶碗 覆紙
5月16日	小堀宗実	遠州茶道宗家	重要文化財 雨漏茶碗

	小堀優子	同上		御本立鶴茶碗 重要文化財 青井戸茶碗 銘 柴田 瑠璃雀香合
5月25日	内山 肇	ウィズ・ハウス・ウチヤマ		馬図目貫
5月28日	ステファン・リトル	アメリカ	ロサンゼルス・カウンティ美術館	
	クリスティーナ・ユー		同上	重要文化財 竹雀図 伝 牧谿筆 三星囲碁図
6月6日	尾野善裕	京都国立博物館		唐物茶壺 銘 四国猿
	平尾政幸	京都市埋蔵文化財研究所		
6月7日	フランソワ・オランド	フランス大統領	那智瀧図	国宝
	オレリー・フィリペティ	フランス文化大臣		
6月9日	瀬津 勲	瀬津雅陶堂		千手観音二十八部衆像 壬生寺地藏菩薩像 阿弥陀二十五菩薩来迎図
6月11日	クリストファー・カーシー	アメリカ	カリフォルニア大学	金光明経卷第四断簡
	佐野みどり	学習院大学		
6月20日	伊藤紫織	千葉市美術館		燕子花図 中村芳中筆 蝙蝠図 方祝印
6月21日	野村千春	愛知県立芸術大学		夏草図屏風 尾形光琳筆
	岩永てるみ	同上		
	阪野智啓	同上		
	加藤清香	同上		
6月21日	フランク・フェルテンズ	学習院大学		鏤絵梅図角皿
	佐野みどり	同上		鏤絵山水図角皿 鏤絵蘭図角皿 鏤絵山水茶碗
6月26日	ブライアン・ロウ	アメリカ	ヴァンダービルト大学	重要文化財 大唐内典録 卷第十残卷 (六人部東人発願経)
6月28・30日				
	川畑憲子	九州国立博物館		楼閣人物図合子
	高樹経澤	同上		蘭文香合
	伏野喜深子	同上		楼閣人物図合子
	小池富雄	鶴見大学		椿文合子 椿文盆 楼閣人物図楕円盆 花文天目台 花文天目台(油滴天目台) 楼閣人物図稜花盆 楼閣人物図輪花盆 芙蓉文盆 屈輪文香合

			牡丹文合子 屈輪文盆 菊文盆 雲龍文盆
7月4日	アンドリュー・ワツキ ルイス・コート	アメリカ 同上	サックラー・ギャラリー
8月4日	藤岡 穰 浅見龍介 浅湫 毅 皿井 舞 外山 潔 関 丙賛 朴 鶴洙 権 江美 李 鎮榮 鏡山智子	大阪大学大学院 東京国立博物館 京都国立博物館 東京文化財研究所 泉屋博古館 韓国国立中央博物館 同上 同上 大阪大学 同上	茶壺 2件 重要文化財 金銅釈迦多宝二仏並坐像 金銅鎚鏝 五尊仏坐像 金銅七連仏坐像 金銅如来立像 金銅三尊仏立像 金銅観音菩薩立像 金銅光背
7月12日	矢島 新 白戸慎太郎	跡見学園女子大学 日本民藝館	幸若舞曲つきしま絵巻
8月29日	村木敬子 島津忠夫 大谷俊太 尾崎千佳	大東急記念文庫 大阪大学 京都女子大学 山口大学	百椿図
7月27日	三笠景子	東京国立博物館	龍泉窯青磁稜花大皿 3件 鎚筋酒海 蓮葉蓋酒海
7月27日	下村奈穂子	筑波大学	備前烏帽子形耳付水指 備前菱形水指 備前竹節形水指 備前耳付袋形水指
8月23日	井溪 明	堺市立みはら歴史博物館	観音菩薩立像 2件
9月12日	小山弓弦葉	東京国立博物館	茜地縞花唐草文更紗 (堅手茶碗銘長崎附属) 茜地縞草花文更紗(交趾香合附属) 更紗手鑑
10月2日	津田卓子	名古屋市博物館	高尾太夫吉原通船図 歌川広重筆
11月8日	高橋夕美恵 梶谷宣子 小山田貴子	MIHO MUSEUM 同上 同上	重要文化財 堅手茶碗 銘 長崎 および附属の更紗包布 茶入 銘 染色 および更紗包布 茶入附属更紗 5件
11月14日	丸山猶計	九州国立博物館	重要文化財 龍巖徳真墨蹟 重要文化財 月江正印墨蹟
12月5日	野村千春	愛知県立芸術大学	夏草図屏風 尾形光琳筆

	岩永てるみ	同上	
	阪野智啓	同上	
	安井彩子	同上	
11月15日	伊藤大輔	名古屋大学	重要美術品 赤壁図屏風 長澤芦雪筆
	藤原幹大	同上	
12月11日	浅見龍介	東京国立博物館	文殊菩薩騎獅像 聖観音菩薩立像 地藏菩薩坐像
12月12日	加藤一郎	宮内庁書陵部陵墓課陵墓調査室	神獣文鏡
12月26日	泉 武夫	東北大学	兜率天曼荼羅
	長岡龍作	同上	
	海野啓之	同上	
	ローワ・シュワルツ	上智大学	
[平成26年]			
2月5日	鄭 于澤	韓国 東国大学校	地藏菩薩変相図
2月13日	中尾優衣	京都国立近代美術館	鹿秋草蒔絵硯箱
2月18日	山本忠尚	天理大学	方格四獣十二支文鏡 4件 海獣葡萄鏡 2件 參龍氏鏡 双鳳双獣八稜鏡 双鳳天馬八稜鏡 双鳳双獣八稜鏡 狩獵文八稜鏡 雲龍八花鏡 月宮双鵝八花鏡
2月20・21日			
	三船温尚	富山大学	饕餮文方罍
	金井大志	原製作所	重要文化財 饕餮文方彝 蟠螭文壺 重要文化財 双羊尊
2月20・21日			
	廣川 守	泉屋博古館	饕餮文方罍
	深井 純	関西学院大学	饕餮文方盃
	石谷 慎	京都大学大学院	饕餮文罍 饕餮文尊 饕餮文甗 重要文化財 双羊尊 重要文化財 饕餮文方彝 蟠螭文壺
3月1日	田中孝幸	東海大学	百椿図
	鈴木和代	日本ツバキ協会町田支部	
	田中実穂	江戸東京博物館	
3月2日	佐々木勇	広島大学	大方等大集菩薩念仏三昧分経

		(足利尊氏願経)
		卷第一、三、五、八、十
		四分律藏 (足利尊氏願経)
		第二、三、五、六、七、八
3月14日	門脇むつみ 美術史家	重要文化財 瓜虫図 呂敬甫筆 風俗図 山水図 江雪宗立賛 藤原惺窩閑居図 狩野山雪筆 西王母図 清原雪信筆
3月19日	大入達雄 大入 石川光治 石川漆工房	重要文化財 花白河蒔絵硯箱
	計 41件 閲覧者 83名	作品総数 130件

#### 4. 教育普及

##### (1) 催事

引き続き、各展覧会に関連して、館内外の講師による講演会を講堂で開催した(参加費無料、定員130名)。また、担当学芸員が、講堂にてスライド・レクチャー、展示室にてギャラリートークを、随時実施した。

・コレクション展「国宝燕子花図屏風 - 〈琳派〉の競演-」

講演会1：4月20日(土)

元東京家政学院大学教授 西本周子氏「近世草花図と燕子花図屏風」 聴講 97名

講演会2：5月4日(土)

学習院大学教授 荒川正明氏「京焼の魅力をたずねて - 仁清から乾山まで -」

聴講 125名

・特別展「山口県立萩美術館・浦上記念館名品展 やきものが好き、浮世絵も好き」

講演会1：6月22日(土)

平木浮世絵美術館 館長 佐藤光信氏「浦上さんの蒐集した珠玉の浮世絵」

聴講 71名

講演会2：6月29日(土)

浦上蒼穹堂 店主 浦上 満氏「息子が語る父のコレクション」

聴講 134名

英語によるギャラリートツアー：6月8日(土)

三田アート画廊 ケン・キャプラン氏

聴講 14名

・コレクション展「曼茶羅展 - 宇宙は神仏で充満する！」

講演会1：8月3日(土)

東京藝術大学大学美術館教授 原田一敏氏

「茶席の主・釜 - 茶の湯の歴史と鑑賞 -」

聴講 80名

講演会2：8月24日(土)

種智院大学教授 中村幸真氏

「曼茶羅のこころとかたち - 装飾文様に込められた意味 -」

聴講 132名

講演会3：8月31日(土)

白原由起子「日本の曼茶羅 - 仏と神が織りなす宇宙 -」

聴講 133名

・コレクション展「清雅なる情景 日本中世の水墨画」

- 講演会1：9月14日（土）  
 学習院大学 教授 島尾 新氏「室町水墨画の世界」 聴講 111名
- 講演会2：9月28日（土）  
 成城大学教授 相澤正彦氏「室町水墨画の西と東」 聴講 80名
- 講演会3：10月19日（土）  
 重要無形文化財保持者彫金 桂 盛仁氏「彫金の技をみる」 聴講 49名
- ・特別展「井戸茶碗 ―戦国武将が憧れたうつわ―」
- 講演会1：11月9日（土）  
 三井記念美術館 参与 赤沼多佳氏「井戸茶碗の魅力」 聴講 131名
- 講演会2：11月30日（土）  
 武者小路千家 家元後嗣 千 宗屋氏「茶人と井戸茶碗」 聴講 145名
- 落 語：11月29日（金）  
 落語家 立川談慶氏「『井戸の茶碗』を聴く会」 聴講 124名
- ・コレクション展「和歌を愛でる」
- 講演会1：1月18日（土）  
 福島洋子「『和歌を愛でる』を楽しむ」 聴講 66名
- 講演会2：2月1日（土）  
 サントリー美術館 学芸部長 石田佳也氏  
 「和歌と視覚芸術 花鳥風月をめぐる」 聴講 72名
- 講演会3：2月8日（土）  
 松原 茂「懐紙・短冊と和歌」 聴講 42名
- ・特別展「生誕200年記念特別展 清麿 ―幕末の志士を魅了した名工―」
- 講演会1：3月8日（土）  
 佐野美術館 館長 渡邊妙子氏「なぜ四谷正宗か」 聴講 76名
- 講演会2：3月22日（土）  
 萩博物館 副館長 樋口尚樹氏  
 「山浦清麿の萩来訪について―滞在中の作刀と人物交流―」 聴講 60名
- スライド・レクチャー：  
 3月21日（金） 刀剣研師 藤代興里氏 聴講 123名  
 3月28日（金） 同 上 聴講 91名

加えて、本年度は、有料の特別企画として以下の催事を講堂で実施した。

- ・特別企画「はじめての刀剣鑑賞 ―マナーを学んで刀剣を持ってみよう―」
- ：3月8日（土） 佐野美術館 館長 渡邊妙子氏  
 定員 50名 参加費 2,000円（中学生以上の学生 1,000円） 参加者 48名
- ：3月21日（金） 刀剣研師 藤代興里氏  
 定員 50名 参加者 2,000円（中学生以上の学生 1,000円） 参加者 50名

茶室での催事として、本年度も引き続き、秋・春季恒例の、茶道初心者を対象とした「はじめての茶席」を開催した。

- ・「はじめての茶席 ―錦秋をたのしむ―」  
 平成25年10月3日（木） 於：披錦斎  
 定員 100名（20名×5席） 参加費 2,000円（高校生以上の学生 1,000円） 参加者 92名

・「はじめての茶席 ―花見どきの茶―」

平成 26 年 3 月 20 日（木） 於：被錦齋

定員 100 名（20 名×5 席） 参加費 2,000 円（高校生以上の学生 1,000 円） 参加者 81 名

また本年度は、展覧会に関連する特別企画として、以下の催事を茶室で行った。

・「人間国宝の萩焼茶碗で楽しむ茶席」

平成 25 年 6 月 1 日（土） 於：披錦齋

定員 100 名（20 名×5 席） 参加費 5,000 円 参加者 97 名

・「館蔵の井戸茶碗で楽しむ茶席」

平成 25 年 11 月 21 日（木） 於：披錦齋

定員 100 名（20 名×5 席） 参加費 10,000 円 参加者 98 名

そのほか、来館者サービスとして、7 月 3 日～7 日の期間、本館庭園口の軒下に七夕飾りとして 3 本の竹を備え付け、来館者に短冊に願いごとを書いて吊るすイベントを行い、季節の伝統行事を楽しんでいただいた（参加無料）。

（2）インターネットによる広報

引き続き、展覧会や各種の催事、施設などの情報をウェブサイト（<http://www.nezu-muse.or.jp>）で公開し、随時、情報の更新を行った。年間の閲覧回数は 791,356 アクセス（月平均 65,946 アクセス）、ユーザー数は 500,637 名（月平均 41,720 名）を数える。この数値は、前年度より 132,874 アクセス、32,238 名の増加にあたる。

国内外の美術愛好者や旅行者が手軽に当館の活動情報を得られるよう、利用が急増しているスマートフォンやタブレット端末向け情報提供ツールとして、平成 23 年度から開始した Web アプリ「根津美術館」（<http://www.nezu-muse.app.jp>）は、今年度のダウンロード数が昨年度末から約 100 件増加した。Facebook では常用ユーザー数は昨年度末の 1,400 名から本年度末には 4,500 名に達し、Twitter でのフォロワー数は本年度末時点で 3,600 名を超えた。

（3）プレスリリース

美術館や展覧会の情報を、各種メディアに告知するプレスリリースを発信し、各展覧会の開催時期に合わせた各種パブリシティへの掲載、雑誌での特集記事やテレビ番組への協力を促進した。また同時に、ミュージアムショップやカフェの新商品などの告知リリースも配信し、多様なメディアに掲載されることを促し、それによる美術館・展覧会の認知度向上に引き続き努めた。さらに国内のみならず、海外の各種メディアからの問い合わせに対して情報を提供し、ニーズに合った対応に努めた。

（4）ポスター・チラシ・年間スケジュールパンフレット

引き続き、館外 2 か所に開催中の展覧会ポスターを掲示。館内には次回展のポスターとチラシや、年間スケジュール、根津倶楽部パンフレットを常備し、美術館および展覧会の認知度アップに努めた。英語版の館内配布用展示目録パンフレットならびに英語版チラシの作成・配布を引き続き行った。今年度も、各展覧会の開催時期に合わせ、近隣の商店や公共施設、文化教育施設、美術館、博物館、古美術商などに展覧会のポスターやチラシを配布し、各展覧会の内容に即した特定団体への情報提供を行うなど、きめ細かな誘客活動を行い、さらに、外国人集客に力を入れている東京都や観光庁の旅行案内所へのチラシの定期提供ルートも開拓した。

#### (5) 内覧会・レセプション

展覧会の開催日前日（年度内7回）に、各種メディア向けの記者内覧会を実施して、展覧会の担当学芸員による展示解説を行い、メディアによる宣伝活動の促進を目指した。この記者内覧会に加え、特別展2回に際しては、美術関係の招待客を対象に特別内覧会及びレセプションも実施し、業界関係者や教育者などを通じての宣伝や誘客を図った。

- ・コレクション展「国宝燕子花図屏風 ―〈琳派〉の競演―」

平成 25 年 4 月 18 日（金）	記者内覧会	出席者	36 名
---------------------	-------	-----	------
- ・特別展「山口県立萩美術館・浦上記念館名品展 やきものが好き、浮世絵も好き」

平成 24 年 5 月 3 1 日（金）	記者内覧会	出席者	32 名
	特別内覧会		628 名
- ・コレクション展「曼荼羅展 ―宇宙は神仏で充満する！―」

平成 24 年 7 月 26 日（金）	記者内覧会	出席者	35 名
---------------------	-------	-----	------
- ・コレクション展「清雅なる情景 日本中世の水墨画」

平成 24 年 9 月 10 日（金）	記者内覧会	出席者	43 名
---------------------	-------	-----	------
- ・特別展「井戸茶碗 ―戦国武将が憧れたうつわ―」

平成 24 年 11 月 1 日（金）	記者内覧会	出席者	51 名
	特別内覧会		473 名
- ・コレクション展「和歌を愛でる」

平成 25 年 1 月 8 日（火）	記者内覧会	出席者	38 名
--------------------	-------	-----	------
- ・特別展「生誕 200 年記念特別展 清麿 ―幕末の志士を魅了した名工―」

平成 25 年 2 月 25 日（火）	記者内覧会	出席者	31 名
	特別内覧会		252 名

#### (6) 施設案内パンフレット

館内に、施設案内のパンフレット（日本語・英語・中国語・韓国語の4版）をひき続き常備し、本年度はさらに仏語版を作成して配布し、常備した。

#### (7) 他美術館との協力

- ・特別展「山口県立萩美術館・浦上記念館名品展 やきものが好き、浮世絵も好き」は、山口県立萩美術館・浦上記念館が所蔵する作品による展覧会で、実施にあたり同館の全面的協力を得た。
- ・「生誕 200 年記念特別展 清麿 ―幕末の志士を魅了した名工―」は、佐野美術館（静岡）、信濃美術館（長野）、萩博物館（山口）と当館の共催の形態をとり、生誕 200 年記念清麿展実行委員会の協力のもと、上記4館の順で開催した。実施においては、共通経費を各館で分担し、佐野美術館が編集・発行した展覧会図録（平成 25 年 8 月 31 日発行）を4館で販売した。
- ・特別展「井戸茶碗 ―戦国武将が憧れたうつわ―」の会期中、ほぼ同時期に茶陶に関する展覧会を開催した三井記念美術館、五島美術館と共同企画として「茶陶三昧 3 館めぐり」キャンペーンを実施した。これは、他館の当該展の入館券の半分を持参した来館者の入館料の 100 円割引、さらに3館の半券を持参した来館者に、3館の次回展共通招待券（いずれか1館のみ使用可）を贈呈するもので、「井戸茶碗」展への誘客強化とともに、当館次回展への認知と誘客を狙うものであった。このキャンペーンによる割引を利用した入館者は 4,121 名（総入館者数の 10%）、次回展招待券の配布数は 1,480 枚、またその招待券を使った「和歌を愛でる」展への来館者は 395 名であった。
- ・引き続き、美術館関連団体に加入することで、他の美術館との情報交換を推進し、美術館業界の活



活性化に努めた。美術館業界の活性化を目的として森美術館が企画・運営する「カウントアート」に平成 24 年度より参加し（現在当館を含め 19 館参加）、展覧会毎に招待券を提供している。これは、美術館入館者がスマートフォンの「カウントアート」サイトで抽選に参加し、当選者には他美術館の招待券やノベルティが郵送されるしくみである。

#### （8）地域との連携

- ・港区内の美術館として、本年度も、同区が年 4 回発行する広報誌『港区ミュージアムネットワーク』に展覧会情報を掲載し、読者への招待券プレゼント企画に参加した。
- ・港区が三田図書館で開催する「港区ミュージアムセミナー」の一環として、9 月に「清雅なる情景 日本中世の水墨画」展にちなんだ講演を、担当学芸員が行った。
- ・10 月に開催された港区主催の「みなと区民まつり」で、記念バッジ購入者向け特典として入館料割引を実施した。同じく 2 月に行われた港区主催「ミナコレ 2014 冬」イベントでは、無料バスの運行に際し、館前にバス停設営をすることで参加・協力をした。
- ・展覧会のポスターやチラシを館員が持参して近隣商店や団体に届けることにより、緊密な関係構築に努めた。
- ・9 月から 10 月にかけて開催された、スポーツ祭東京 2013（「第 68 回国民体育大会」と「第 13 回全国障害者スポーツ大会」）では、東京都からの要請を受け、ガイドブックを持参された方々への入館料割引を実施した。
- ・来館者へのアクセス案内の利便を向上するため、地元町会及び商店会の協力を得て道路管理者に働きかけ、骨董通りと美術館通りの交差点の信号機に「南青山六丁目」の地名表示板が設置された。

#### （9）有料広告

- ・「山口県立萩美術館・浦上記念館名品展 やきものが好き、浮世絵も好き」展、「井戸茶碗 一戦国武将が憧れたうつわー」展、「和歌を愛でる」展への誘客のため、朝日新聞朝刊、日本経済新聞夕刊に、広告（100 円割引券付）を各 1 回ずつ掲出した。「山口県立萩美術館・浦上記念館名品展 やきものが好き、浮世絵も好き」展での利用者は 459 名（総入館者数の 2%）、「井戸茶碗 一戦国武将が憧れたうつわー」展では 1,243 名（同 3%）、「和歌を愛でる」展では 283 名（同 2%）だった。
- ・また本年度は新たに、「井戸茶碗 一戦国武将が憧れたうつわー」展、「生誕 200 年記念特別展 清麿 一幕末の志士を魅了した名工」展において、地下鉄・表参道駅にポスター（チラシ配布用ポケット付）をそれぞれ 2 週間、1 週間の期間で掲出した。

#### （10）根津倶楽部

「根津倶楽部」は、固定客層の獲得を目的として、2009 年に開始した会員組織であり、平成 24 年 7 月より新たな制度に移行し、入会金 3,000 円、年会費 8,000 円で展覧会ごとの案内葉書と 1 名の招待券を送付し、会員証の提示で入館料無料、ミュージアムショップの 1 割引（一部商品を除く）の特典を提供している。平成 25 年度は会員が 97 名増加し、年度末の会員数は 353 名となった。

#### （11）NEZUNET

根津美術館の会員制メールマガジン「NEZUNET」（会費無料）は、新創開館以来会員数が増え続け、平成 25 年度は会員が 647 名増加し、年度末現在の会員数は 4,049 名を数えた。当年度は、号外をふくめて 9 回、メールマガジンを配信した。

## (12) 青山茶会

「青山茶会」は、茶道にある程度習熟した人々を対象に、茶道美術への理解と普及、および当館のファンやリピーターを増すことを目的として、2年間10万円の会費で、各年4回の茶会と4回の講座への参加及び入館料無料の特典を提供する会員制度である。本年度は、前年度に入会した第二期会員179名への2年目のプログラムとして、以下の講座と茶会を開催した。

[平成25年]

第五回講座	4月27日(土)	講師：武者小路千家 千 宗屋氏「茶の湯と現代」	参加者 110名
第五回茶会	6月15日(土)	席主：裏千家 北見宗春氏	参加者 202名
第六回講座	7月13日(土)	講師：釜師 長野 烈氏「茶の湯の釜」	参加者 105名
第七回講座	9月21日(土)	講師：三井記念美術館 赤沼多佳氏「茶碗について」	参加者 98名
第六回茶会	10月12日(土)	席主：表千家 松孤会	参加者 142名
第七回茶会	12月7日(土)	席主：松尾流 松尾宗典氏	参加者 176名

[平成26年]

第八回講座	1月25日(土)	講師：松原 茂「古筆切の魅力」	参加者 95名
第八回茶会	3月15日(土)	席主：上田宗箇流 上田宗冏氏	参加者 164名

## (13) 美術品の館外貸出

以下の展覧会および茶会に、所蔵美術品の館外貸出を行った。

- ・「国宝 大神社」展 会期：2013年4月9日(火)～6月2日(日)

東京国立博物館	重要文化財 春日宮曼荼羅	1幅
	重要美術品 石清水八幡宮曼荼羅	1幅
- ・日越国交樹立40周年記念「ベトナム」展 2013年4月16日(火)～6月9日(日)

九州国立博物館	南蛮切溜花入	1口
	染付花唐草文茶碗 銘 童子	1口
	安南染付蜻蛉文茶碗	1口
- ・「和歌と美術」展 2013年4月20日(土)～6月3日(日)

島根県立石見美術館	人丸図	1幅
	人丸図	1幅
- ・「茶人のあそび心 形物香合番付の世界」展 2013年4月20日(土)～5月26日(日)

愛知県陶磁資料館	古染付叭々鳥香合	1合
	呉洲染付菊蟹香合	1合
	交趾鴨香合	1合
	交趾獅子香合	1合
	交趾三彩四方槍梅香合	1合

- ・『陶説』創刊六十周年記念茶会 2013年6月5日(水)  
 日本陶磁協会 於：根津美術館 一樹庵・披錦斎
 

白鷺図 海北友松筆	1幅
祥瑞獅子香炉	1口
堆朱牡丹文香合	1合
蒟醬炭斗	1口
替鶴羽箒	1本
銀象嵌鉄火箸 徳元作	1組
鑲 明珍作	1組
籐組釜敷	1枚
灰器 空中作	1口
赤銅灰匙	1本
重要美術品 下絵朗詠集切 伝 藤原公任筆	1幅
青磁筍花生	1口
芦屋鶴首網文釜	1口
唐銅風炉	1口
三島芋頭水指	1口
瀬戸大海茶入 銘 敷島	1口
重要文化財 鼠志野茶碗 銘 山の端	1口
茶杓 古田織部作	1本
- ・「生誕250周年 谷文晁」展 2013年7月3日(水)～8月25日(日)  
 サントリー美術館
 

山水図 谷文晁筆	1幅
赤壁図屏風 谷文晁筆	6曲1双
- ・「朱漆『根来』—中世に咲いた華」展 2013年9月1日(土)～12月15日(日)  
 MIHO MUSEUM
 

朱漆盆	1枚
朱漆盤(二月堂練行衆盤)	1枚
根来塗四方盆	1枚
春日盆	1枚
春日盆	1枚
根来塗盆(手力盆)	1枚
朱漆塗盤	1枚
- ・「極楽への誘い 練り供養をめぐる美術」展 2013年9月7日(土)～10月20日(日)  
 龍谷ミュージアム
 

重要文化財 釈迦来迎図	1幅
-------------	----
- ・「俵屋宗達と琳派」展 2013年9月14日(土)～10月14日(月・祝)  
 石川県立美術館
 

白楽天図 尾形光琳筆	6曲1隻
------------	------
- ・「歌仙 王朝歌人への憧れ」展 2013年9月28日(土)～11月4日(月・祝)  
 徳川美術館
 

柿本人麿像 伝 土佐広周筆	1幅
---------------	----
- ・「宮川長春」展 2013年10月12日(土)～11月17日(日)  
 大和文華館
 

那須与一図 宮川長春筆	2幅
-------------	----
- ・「雅展 鎌倉」 2013年10月25日(金)～29日(火)  
 瀬津雅陶堂
 

壬生寺地藏菩薩	1幅
---------	----
- ・「極楽への誘い 練り供養をめぐる美術」展 2013年11月1日(金)～12月8日(日)  
 岡山県立美術館
 

重要文化財 釈迦来迎図	1幅
-------------	----

- ・「国宝 大神社」展 2014年1月9日(水)～3月9日(日)
 

九州国立博物館	国宝 那智瀧図	1 幅
	重要文化財 春日宮曼荼羅	1 幅
	重要美術品 石清水八幡宮曼荼羅	1 幅
- ・「探幽3兄弟」展 2014年2月22日(火)～3月30日(日)
 

板橋区立美術館	山水花鳥図屏風 狩野尚信筆	6 曲 1 双
	山水荷鷺蘆雁図 狩野尚信筆	3 幅
- ・「The Story of Chigusa」展 2014年2月22日(土)～7月27日(日)
 

Freer Gallery of Art and Arthur M. Sackler Gallery Smithsonian Institution

	桑中次	1 合
	井戸茶碗 銘 宗及	1 口
	鬼桶水指 銘 龍鱗	1 口
- ・「国際浮世絵学会創立50周年記念 大浮世絵」展 2014年3月11日(火)～5月6日(火)
 

名古屋市博物館	高尾太夫吉原通船図 歌川広重筆	2 幅
---------	-----------------	-----
- ・「江戸の異国万華鏡－更紗・びいどろ・阿蘭陀」展 2014年3月15日(土)～6月8日(日)
 

MIHO MUSEUM	重要文化財 堅手茶碗 銘 長崎 および更紗包裂	1 組
	面取手茶入 銘 染色 および更紗包裂	1 組
		計 18ヶ所 56 作品

#### (14) 画像の貸出

当年度も、ほぼ前年度数に近い220件の申請を受け、479点の画像を館外の刊行物や研究者に提供した。

#### (15) 施設の貸与

以下の講演会・茶会等に講堂・茶室等の施設を貸与し、催事への協力を行った。

##### ・講演会（講堂）

##### [平成25年]

6月1日(土)	東洋陶磁学会総会	会議	80名
6月13日(水)	武蔵野大学	講演会	30名
6月18日(火)	日本陶磁協会	講演会	80名
9月28日(土)	神奈川県建築士会・隈建築事務所・清水建設	講演会	30名
10月1日(火)	日本陶磁協会	講演会	100名
10月11日(金)	浮萍会	勉強会	20名
11月24日(日)	裏千家淡交会東京第五西支部青年部	講演会	80名
11月27日(水)	東京商工会議所板橋支部不動産部会	講演会	30名

##### [平成26年]

1月29日(水)	ポータランド日本庭園	会議	30名
2月5日(水)	大師会	講演会	70名
2月6日(木)	日本陶磁協会	講演会	30名
2月7日(金)	慶應大学国際センター	講演会	30名
2月9日(日)	游墨会	講演会	20名
3月25日(火)	トルコ団体	団体	45名
3月27日(木)	日本陶磁協会	講演会	40名

## ・茶会（茶室、講堂）

[平成 25 年]

4 月 4 日（木）、5 日（金）、6 日（土）	大師会	755 名
4 月 28 日（日）、29 日（月）	紅心宗慶宗匠三回忌茶会	576 名
6 月 2 日（日）	大日本茶道協会	176 名
6 月 5 日（水）	日本陶磁協会 茶会	322 名
6 月 8 日（土）	上田宗箇流東京遠鐘クラブ 新緑茶会	108 名
10 月 5 日（土）	石州流古閑堂派一芳会	79 名
10 月 13 日（日）	桂雪会	246 名
10 月 14 日（月）	四友会	232 名
10 月 20 日（日）	宗徧流関東地区	282 名
11 月 3 日（日）	慶應茶道会 全慶應茶会	225 名
11 月 10 日（日）	洛水会	336 名
11 月 17 日（日）	日本煎茶趣味協会	39 名
11 月 23 日（土）	大日本茶道学会宇都宮支部	146 名
12 月 7 日（土）	裏千家六日会	51 名

[平成 26 年]

3 月 30 日（日）	桂泉会	296 名
-------------	-----	-------

計 15 件 3,573 名

## II 収益事業

### 【事業の概要】

#### 1. 不動産事業

日本殖産興業株式会社と持分割合二分の一で建築した「青山サンライトビル」を建物の当館持分を貸店舗として日本殖産興業株式会社に賃貸し、管理は日本殖産に業務委託。他に、サンライトビル日本殖産持分の地代、駐車場の賃料、NTT ドコモの移動通信設備設置料等の収入があった。

### Ⅲ 庶務の概要

#### 1. 役員

平成26年3月31日現在

役職名	勤務	氏名	就任年月日 (初就任年月日)	職歴		
				現職名	最終公務員暦 ・同一業界	
					関係歴	退職 年月日
理事長	非常勤	根津 公一	平成24年4月1日 (平成24年4月1日)	株式会社東武百貨店 取締役会長	学校教育	なし
常務理事	非常勤	矢野 恵一	平成24年4月1日 (平成24年4月1日)	公益財団法人根津美術館 常務理事	なし	〃
理事	非常勤	安田 弘	平成24年4月1日 (平成24年4月1日)	安田不動産株式会社 顧問	なし	〃
〃	非常勤	河合 正朝	平成24年4月1日 (平成24年4月1日)	千葉市美術館 館長	美術館	〃
〃	非常勤	島尾 新	平成24年4月1日 (平成24年4月1日)	学習院大学 教授	学校教育	〃
〃	非常勤	潮田 洋一郎	平成24年4月1日 (平成24年4月1日)	株式会社LIXILグループ 取締役会議長	なし	〃
〃	常勤	西田 宏子	平成24年4月1日 (平成24年4月1日)	公益財団法人根津美術館 副館長	なし	〃
〃	常勤	波多野 定治	平成24年4月1日 (平成24年4月1日)	公益財団法人根津美術館 管理部長	なし	〃
		8名				
監事	非常勤	後藤 康雄	平成24年4月1日 (平成24年4月1日)	はごろもフーズ株式会社 代表取締役会長	なし	なし
〃	非常勤	中瀬 雅通	平成25年5月29日 (平成25年5月29日)	株式会社三陽商会 相談役	〃	〃
		2名				
評議員	非常勤	小林 喬	平成24年4月1日 (平成24年4月1日)	富国生命保険相互会社 相談役	保険業	なし
〃	非常勤	正田 修	平成24年4月1日 (平成24年4月1日)	株式会社日清製粉グルー プ本社 名誉会長相談役	なし	〃
〃	非常勤	根津 嘉澄	平成24年4月1日 (平成24年4月1日)	東武鉄道株式会社 取締役社長	鉄道業	〃
〃	非常勤	秋山 智史	平成24年4月1日 (平成24年4月1日)	富国生命保険相互会社 取締役会長	保険業	〃

〃	非常勤	堀内 光一郎	平成 24 年 4 月 1 日 (平成 24 年 4 月 1 日)	富士急行株式会社 代表取締役社長	鉄道業	〃
〃	非常勤	望月 朗宏	平成 24 年 4 月 1 日 (平成 24 年 4 月 1 日)	日清紡ホールディングス 株式会社 顧問	なし	〃
〃	非常勤	安田 正	平成 24 年 4 月 1 日 (平成 24 年 4 月 1 日)	公益財団法人根津美術館 評議員	なし	〃
〃	非常勤	有馬 朗人	平成 24 年 4 月 1 日 (平成 24 年 4 月 1 日)	静岡文化芸術大学 理事長	東京大 学総長	平成 5 年 3 月
〃	非常勤	田村 妙子	平成 24 年 4 月 1 日 (平成 24 年 4 月 1 日)	公益財団法人 山種美術財団 理事長	美術館	なし
〃	非常勤	徳川 義崇	平成 24 年 4 月 1 日 (平成 24 年 4 月 1 日)	公益財団法人徳川黎明会 会長	美術館	〃
〃	非常勤	根津 后方子	平成 24 年 4 月 1 日 (平成 24 年 4 月 1 日)	公益財団法人根津美術館 評議員	なし	〃
〃	非常勤	近藤 誠一	平成 26 年 3 月 19 日 (平成 26 年 3 月 19 日)	近藤文化・外交研究所 代表	文化庁 長官	平成 25 年 7 月
		12名				

## 2. 職員

平成 26 年 3 月 31 日現在

職 名	氏 名	就職年月日	担当事務
館 長	根 津 公 一	平成 12 年 1 月 4 日	総 括
副 館 長	西 田 宏 子	昭和 56 年 4 月 1 日	工芸史・学芸部総括
学芸部長	松 原 茂	平成 20 年 10 月 1 日	日本書画史・学芸部総括
学芸第一課長	白 原 由起子	平成 20 年 10 月 1 日	仏教美術史
学芸第一課	多比羅 菜美子	平成 15 年 5 月 1 日	漆工史・保存環境
学芸第一課	福 島 洋 子	平成 21 年 4 月 1 日	墨跡・学芸庶務・図書管理
学芸第二課長	野 口 剛	平成 20 年 10 月 1 日	近世絵画史・情報管理
学芸第二課	吉 岡 明 美	平成 21 年 4 月 1 日	染色史・茶会関連
学芸部広報課長	所 純 子	平成 24 年 12 月 1 日	広報全般
学芸部広報課	村 岡 香代子	平成 25 年 1 月 1 日	広 報
学芸部広報課	荒 川 麻美子	平成 21 年 4 月 1 日	画像管理・商品開発
管 理 部 長	波多野 定 治	平成 19 年 7 月 1 日	管 理 部 総 括
管理部次長	鈴 木 康 生	平成 13 年 4 月 11 日	設備管理・顧客サービス
管 理 部	高 室 修	昭和 50 年 3 月 1 日	庭園管理
管 理 部	田 中 智 子	平成 2 年 9 月 1 日	庶 務・出 納
管 理 部	宇田川 真紀雄	平成 12 年 4 月 1 日	会 計・茶 会
管 理 部	松 井 麻 美	平成 21 年 4 月 1 日	商 品 管 理
管 理 部	須 田 瑛 生	平成 26 年 3 月 1 日	総 務・会 計
管 理 部	淵 野 史 郎	平成 24 年 9 月 1 日	警 備
	19 名	他に臨時職員 27 名	



### 3. 役員会

#### (1) 理事会

開催日 平成 25 年 5 月 15 日 (水) 12 時 30 分～14 時 00 分

場 所 根津美術館 講堂

#### 議事事項

- ① 平成 24 年度事業報告の件  
質疑応答を経て審議の結果、原案通り承認可決された。
- ② 平成 24 年度正味財産増減決算の件  
質疑応答を経て審議の結果、原案通り承認可決された。
- ③ 茶室利用規則改定の件  
質疑応答を経て審議の結果、原案通り承認可決された。

#### 報告事項

- ① 理事長の業務の執行状況について報告があった。
- ② 常務理事の業務の執行状況について報告があった。
- ③ 公益財団法人移行後、従前は収益事業に入れられていたショップとカフェについて公益事業として認められ、これに伴って国税については非課税となったが、地方税である固定資産税・都市計画税については直接美術館の用に供していないことから非課税にならないとの回答があった旨、報告があった。
- ④ 今後の理事会開催予定として、平成 26 年度展覧会スケジュールについて平成 25 年 7 月 31 日 (水) 10 時から 11 時まで、平成 26 年度事業計画・予算について平成 26 年 3 月 5 日 (水) 12 時 30 分から 14 時まで、平成 25 年度事業報告・決算について平成 26 年 5 月 16 日 (金) 12 時 30 分から 14 時に開催する旨、報告があった。

開催日 平成 25 年 7 月 31 日 (水) 10 時 00 分～11 時 10 分

場 所 根津美術館 講堂

#### 議事事項

- ① 平成 26 年度展示スケジュールの件  
質疑応答を経て審議の結果、原案通り承認可決された。
- ② 寄付金等取扱規程制定の件  
質疑応答を経て審議の結果、原案通り承認可決された。
- ③ 寄付金受領の件  
金岡京子東京海洋大学教授、クーニツヒベルリン自由大学教授、レーネンベルリン自由大学教授らより申し出のあった寄附金について説明があり、質疑応答を経て審議の結果、寄附金を、資金使途・管理運営方法のない特別寄附金として受入れることが承認可決された。

#### 報告事項

- ① 平成 24 年度正味財産増減決算書について、内閣府提出の際に指摘を受けた、書式の訂正、及び、収益事業会計から公益事業会計への繰入額を 50%とする修正を行った旨、報告があった。
- ② 瀬戸雄三監事が 5 月 13 日 (月) にご逝去された旨、報告があった。
- ③ 平成 25 年 5 月 29 日 (水) 評議員会が開催され、議案全て可決された旨、報告があった。
- ④ 中瀬雅通氏が平成 25 年 5 月 29 日 (水) 評議員会において監事に選出され、監事に就任された旨、報告があった。

- ⑤ 3月1日（金）理事会において承認された根津美術館を「研究機関」とする文部科学大臣の指定を受けるための申請の進捗状況に付いて説明があり、引き続き検討を行う旨、報告があった。
- ⑥ 平成25年6月7日（金）にフランスのオランド大統領が根津美術館に来館した旨、報告があった。
- ⑦ 公益財団法人公益法人協会への加入手続きを進めている旨、報告があった。
- ⑧ 平成24年1月より平成25年7月までに講じたハクビシン対策について報告があった。
- ⑨ 平成25年7月23日付で公益等認定委員会より送られた、「公益法人の自己規律について」の声明文について、報告があった。

開催日 平成25年11月12日（火） 10時00分～11時00分

場 所 根津美術館 講堂

議事事項

- ① 諸規定制定及び改定の件  
質疑応答を経て審議の結果、科学研究費助成事業の研究実施規程制定、事務処理規則改定、職員給与規定改定、青山茶会会則改定について原案が承認可決された。

報告事項

- ① 平成24年度正味財産増減決算書について、公益事業会計から法人会計への繰入額を0とする修正を行った旨、報告があった。
- ② 展示別の入館者状況について報告があった。
- ③ 須田瑛生の管理部職員採用について報告があった。
- ④ 金岡京子氏、クーニツヒ氏、レーネン氏より7,000ユーロの寄付があり、寄付者の意向を受けて庭園にベンチを設置する方向で晴風苑、隈研吾建築都市設計事務所と協議している旨、報告があった。
- ⑤ 安田理事より、井戸茶碗展示について質問があり、意見交換された。

開催日 平成26年3月5日（水） 13時00分～14時00分

場 所 根津美術館 講堂

議事事項

- ① 平成26年度事業計画の件  
質疑応答を経て審議の結果、原案通り承認可決された。
- ② 平成26年度正味財産増減予算の件  
質疑応答を経て審議の結果、原案通り承認可決された。
- ③ 諸規定改定の件  
質疑応答を経て審議の結果、就業規則、旅費規程、施設整備積立金設置規程、職員給与規程、職員退職給与規程、慶弔見舞金規程、会計処理規則、事務処理規則、公印規則、収蔵品館外貸与規則、茶室利用規則、美術品購入保存基金設置規程、有形文化財買取規則、個人情報保護方針、定年退職者再雇用規程、寄付金等取扱規程、公益財団法人根津美術館における科学研究費助成事業－科研費－の研究実施規程の改定について、原案通り承認可決された。
- ④ 基本財産有価証券買替えの件  
基本財産有価証券の北海道電力株式は無配が続いているため、これを売却して安定的に高配当

が見込める武田薬品工業株式に買い替える案について質疑応答を経て審議の結果、原案通り承認可決された。

⑤ 美術品購入保存基金取崩しの件

質疑応答を経て審議の結果、本年度は美術品購入保存基金の積み立てを行わず、美術品修理費として14,441,325円を取崩す旨、承認可決された。

報告事項

① 理事長の業務の執行状況について報告があった。

② 常務理事の業務の執行状況について報告があった。

③ 施設整備積立金190,000,000円について現在は大口定期預金で運用しているが、金利が低いいため、証券会社より資料の提供を受け、常務理事、管理部長と相談の上、150,000,000円について、みずほ銀行、NTTドコモ、旭硝子株式会社として運用することとした旨報告があった。

④ 平成26年1月31日付で、科学研究費補助金取扱規程第2条第1項第4号に規定する研究機関として文部科学大臣の指定を受けた旨、報告があった。

⑤ 平成26年度根津美術館展覧会スケジュールを12月より配布している旨、報告があった。

⑥ 金岡京子氏、クーニヒ氏、レーネン氏よりの寄付金により、庭園にドイツと日本・友好のベンチを設置した旨、報告があった。

⑦ 次回の決算理事会は平成26年5月16日（金）12時30分～14時に開催する予定である旨、報告があった。

(2) 評議員会

開催日 平成25年5月29日（金） 13時00分～14時00分

場 所 根津美術館 講堂

議事事項

① 平成24年度事業報告の件

質疑応答を経て審議の結果、原案通り承認可決された。

② 平成24年度正味財産増減決算の件

質疑応答を経て審議の結果、原案通り承認可決された。

③ 監事1名選任の件

質疑応答を経て審議の結果、中瀬雅通氏に就任を求めることを承認可決された。

④ 茶室利用規則改定の件

質疑応答を経て審議の結果、原案通り承認可決された。

報告事項

① 公益財団法人移行後、従前は収益事業に入れられていたショップとカフェについて公益事業として認められ、これに伴って国税については非課税となったが、地方税である固定資産税・都市計画税については直接美術館の用に供していないことから非課税にならないとの回答があった旨、報告があった。

② 今後の評議員会開催予定として、平成26年度事業計画・予算について平成26年3月19日（水）12時30分から14時まで、平成25年度事業報告・決算について平成26年5月30日（金）12時30分から14時に開催する旨、報告があった。

開催日 平成 26 年 3 月 19 日（水） 13 時 00 分～14 時 00 分

場 所 根津美術館 講堂

#### 議事事項

- ① 平成 26 年度事業計画の件  
質疑応答を経て審議の結果、原案通り承認可決された。
- ② 平成 26 年度正味財産増減予算の件  
質疑応答を経て審議の結果、原案通り承認可決された。
- ③ 諸規定改定の件  
質疑応答を経て審議の結果、就業規則、旅費規程、施設整備積立金設置規程、職員給与規程、職員退職給与規程、慶弔見舞金規程、会計処理規則、事務処理規則、公印規則、収蔵品館外貸与規則、茶室利用規則、美術品購入保存基金設置規程、有形文化財買取規則、個人情報保護方針、定年退職者再雇用規程、寄付金等取扱規程、公益財団法人根津美術館における科学研究費助成事業－科研費－の研究実施規程の改定について、原案通り承認可決された。
- ④ 基本財産有価証券買替えの件  
基本財産有価証券の北海道電力株式は無配が続いているため、これを売却して安定的に高配当が見込める武田薬品工業株式に買い替える案について質疑応答を経て審議の結果、原案通り承認可決された。
- ⑤ 美術品購入保存基金取崩しの件  
質疑応答を経て審議の結果、本年度は美術品購入保存基金の積み立てを行わず、美術品修理費として 14,441,325 円を取崩す旨、承認可決された。
- ⑥ 評議員 1 名選任の件  
質疑応答を経て審議の結果、長谷部評議員の任期を引き継いで近藤誠一氏に就任を求めることを、承認可決された。

#### 報告事項

- ① 理事長の業務の執行状況について報告があった。
- ② 常務理事の業務の執行状況について報告があった。
- ③ 施設整備積立金 190,000,000 円について現在は大口定期預金で運用しているが、金利が低いいため、証券会社より資料の提供を受け、常務理事、管理部長と相談の上、150,000,000 円について、みずほ銀行、NTT ドコモ、旭硝子株式として運用することとした旨報告があった。
- ④ 平成 26 年 1 月 31 日付で、科学研究費補助金取扱規程第 2 条第 1 項第 4 号に規定する研究機関として文部科学大臣の指定を受けた旨、報告があった。
- ⑤ 平成 26 年度根津美術館展覧会スケジュールを 12 月より配布している旨、報告があった。
- ⑥ 金岡京子氏、クーニヒ氏、レーネン氏よりの寄付金により、庭園にドイツと日本・友好のベンチを設置した旨、報告があった。
- ⑦ 次回の決算評議員会は平成 26 年 5 月 30 日（金）12 時 30 分～14 時に開催する予定である旨、報告があった。